

都電 珍珍 ニュース!

平成二十六年六月十九日(木) 発行 久保印刷所

はじめに...

今日は朝早く起きて都電に乗りました。西八王子駅から荒川線に乗るのに、まがひと苦労。西八王子駅から、中央線に乗り、新宿で下車しました。駅には都電の看板があり、ワクワクしました。東京に唯一の都電看板が残る路面電車。発車オーライ。千チンと。



荒川線の歴史

都電は現在、荒川線の運行を続けていますが、昭和十八年の全盛期には四十一の路線が走っていました。その中の乗客の一人が秋の祖母でした。高度経済成長による自動車の増加で、道路が渋滞するようになり、昭和四十一年に都電の段階的廃止が発表されました。その中で三ノ輪橋一王子駅前の二十七系統と荒川車庫前の三十二系統が残りました。その後、この二系統の統合、存続が決まされました。

社員さんにインタビュー

荒川車庫前で途中降車し、事務所に立ち寄りしました。大きくてきれいなトイレがありました。社員の方には質問をしたり、やさしく教えていただきました。

Q ニ、都電用のめんきょは、何ですか。
A はい、最高四十キロです。(時速) ショウは必要ですか。
Q はい。
Q ニ、バスや地下鉄も都電用のめんきょしようで運転できますか。
A はい、です。
Q 四、都電の運転士さんは、全部でどれくらいいますか。
A 八十人。



路線案内

現在の荒川線は営業キロ十五面の電車で運行をまかなっているが、イベント用として、六十面中一面だけ残っている。そのうち、七千五百四号を除き、全車冷房化され、集電装置もこの二面以外はパワタラフ化がなされていきます。昭和六十三年からは運行管理システムも導入されて、近代化された路面電車として元気になっています。

新型車両も導入

下の写真はバイオレットで、現在は、バイオレットのほか、新型のロレットド・イエロー、オレングレートの合計四色の車両が活躍しています。

インタビューで答えてくださり、ありがとうございました。

新しい工夫誕生!

荒川線はお客様が快適に乗り降りできるように、次の三つの工夫を取り入れました。荒川線は、エ夫その二、停留場の整備を行う。荒川線は、停留場をかさ上げし、車面のステップを切り上げ、ノーステップに乗車できるようにした。エ夫その三、バスと同様に電きヌオに乗車をできるようにした。エ夫その四、三十九百八十六年に導入した運行管理システムをバスと同じく、千九百九十五年に新しくした。そして、停留場に電車が近づいていることを分かるようにした。電車が優先して走行できる道路の信号機も一部で導入した。

都営交通のすべて

地下鉄が一日当たり、二百三十三万人。バスは五十五万人。荒川線は五万人。そして、日暮里・舎人ライナーは六十万人と、合計でおよそ三百万人のお客様を毎日乗せて、都営交通は今日も走り続けています。(二十年年度の調査)

編集後記

実際に都電に乗ったとき、なにか古いように感じました。しかし、乗りやうく座席も、たいてい、都電が大好きになり、都電が大好きになりました。ほがらの都電は、廃止してしまつたけれど、もう少し残っていたら、気がしよかったです。その分、荒川線は残っていてほしいです。

